

①水土里ネット各務用水（各務用水土地改良区）

～ 農地と用水路は地域の宝 手渡そう次の世代へ美しく ～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆その他(自然エネルギー・施設保全・地域づくり)



水路上部空間を活用した太陽光発電



竹の子祭り



各務用水自然観察会

活動のきっかけ

農家の減少と高齢化が進み、耕作放棄地の増加と用水路の荒廃が進んでいた。各務用水土地改良区は、127年前に開かれた地域の宝物「各務用水」の復活を目指し平成20年に取組を開始。

活動の概要

- ◇使用電力の自給を目指し、平成25年より用水路の上部空間等を活用し太陽光発電を開始。
- ◇法面への竹林拡大防止対策として、竹の子を採って春の味覚を楽しむ「竹の子祭り」を開催。NPO 竹林救援隊の協力を得て地元農家と竹林の本格整備を開始。
- ◇NPO岐阜鵜酔倶楽部と協力し、耕作放棄地でサツマイモを栽培、本格芋焼酎「鵜酔」を開発。
- ◇多面的保全協議会の事務局として地域の農地、用水路等の地域の環境保全に取り組む。
- ◇青少年育成協議会及び営農組合と、地区の子供たちを対象に「各務用水自然観察会＆ふるさとの秋を味わう会」を共催。

活動の成果

- ◇太陽光発電により、10基のポンプ場使用電力の90%を自給し、維持管理費を15%軽減するとともに、地域の防災施設(自立電源)のシンボルとして地域住民に浸透。
- ◇竹の子祭り、各務用水自然観察会、通学路へのひまわり植栽、芋焼酎づくり等様々な活動を通じ、地域資源の再発見や子供たちの環境学習に効果を上げるなど地域の活性化に寄与。
- ◇除草・竹伐り、水路補修・泥上げ等、農地、用水路等の多面的保全協議会の活動により、自分達の手で農地や灌漑施設を守るという自覚が生まれ、地域からの信頼が向上。

問合せ先

〒500-8384 岐阜県岐阜市藪田南5丁目14-12(岐阜県シンクタンク庁舎3F)

TEL:058-215-0751 FAX:058-216-0058

②時まちづくり活動推進実行委員会

～ 移住者に優しい時の郷 仲間と共に紡ぐご縁 ～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆定住・移住



整備したウォーキングコースに看板を立てる



地みそとして復活させた「長範みそ」



砂糖菓子「舞鶴」を作っている様子

活動のきっかけ

市町村合併に向けて、30～40歳代のメンバーが10年後の時地区の姿を話し合う中で、合併後の地区の将来への危機感から住民主導の地域づくり活動が必要と感じ、平成15年に20名で組織を立ち上げ活動を開始。

活動の概要

◇時地区の美しい里山風景を守るために、桜並木や花壇の整備等の景観保全活動に取り組むほか、地区のシンボルの烏帽子岳の登山道を整備し、PR用のマップを制作し魅力を発信。

◇時地区で収穫した米と大豆を使い手作りの地味噌「^{ちやうはん}長範みそ」を復活。「味噌ラスク」や「味噌饅頭」にも活用。土産に珍重されていた伝統の砂糖菓子「舞鶴」の復活に取り組む。

◇ウォーキングコースを整備して来訪者を対象としたモニターツアーを実施し、地域の良さをPRし交流人口を増加させることなどで定住・移住に結び付ける試みを展開。

活動の成果

◇烏帽子岳の登山道の整備、マップ作成等の魅力発信で登山者は年々増加。来訪者がウォーキングツアーを通じて、時地区の自然や歴史など地区の魅力を体験。

◇「長範みそ」と「舞鶴」が地域の特産品として軌道に乗り、他の菓子類などの特産品へも展開。

◇定住・移住希望者に居住フォロー等を丁寧に行うことで、7年間に18組の若い夫婦が時地区に移住。地区の活動にも積極的に参加し、移住者の外からの視点で地域の魅力を発信、活動への提案もあり、地域住民にも活気が生まれた。

問合せ先

〒503-1633 岐阜県大垣市上石津町打上535

TEL:0584-45-2367 FAX:0584-45-3051

③有限会社飛騨山椒

～ 地域の高齢者や女性の活躍で山椒を世界に！ ～

第4回選定

チャレンジ賞

◆輸出 ◆女性の活躍 ◆高齢者の活躍



地元高齢者の山椒収穫



シラ国際外食見本市への出展



女性正社員による商品開発会議

活動のきっかけ

奥飛騨温泉郷の山椒は、香りが強く優れた品質で、代々地元住民により大切に守られ育てられてきた。平成18年から、地区高齢者、女性社員と共に飛騨山椒のブランド化の取り組みを開始。

活動の概要

- ◇安定した山椒の収量確保のため、地元高齢農家の協力を得て収穫量の確保に取り組む。
- ◇女性正社員数を3名から5名に増員し(H24-H28)、女性のアイデアを取り入れた新たな飛騨山椒ブランド確立に取り組む。
- ◇国内市場への販路拡大のため、平成21年から「グルメ&ダイニングスタイルショー」へ、平成23年から「日本橋三越デパ地下の催事」へ出展。
- ◇海外市場の販路拡大を目指し、平成27年に「ミラノ博」、平成28年に「パリ・ジェトロ商談会」、平成29年に「シラ国際外食見本市」へ出展。

活動の成果

- ◇山椒農家(高齢者)の契約軒数が45軒から60軒に増加(H18-H28)、収穫量が増加6.3トンから7.9トンに増加(H24-H28)し、高齢者の活躍と地域活性化に寄与。
- ◇平成24年度に「6次産業化対策事業」の認定を受けた新商品の販売を開始、平成28年は2,156千円を売上、地元女性の雇用により、地域住民の所得向上に寄与。
- ◇国内の商談会等への出展で、大手通販会社3社と契約。海外の商談会等への出展で、今期の受注は大幅に増加。商品開発と販路拡大で、地域ブランド商品「飛騨山椒」の知名度が上昇。

問合せ先

〒506-1431 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷村上35-1
TEL:0578-89-2412 FAX:0578-89-3328

④多治見三郷活性協議会

～ 隠れ里から新規農作物をPR、メニュー開発して農村レストランを ～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆女性の活躍



地元施設にて農村レストランプレオープン



東京の展示会で新規農作物をPR



新規農作物のマイクロ野菜の一種

活動のきっかけ

過疎化、高齢化が課題となっている同地区を、農産物及び農村レストラン等を柱として、農村振興・活性化するため、平成27年に多治見三郷活性協議会を設立し活動を開始。

活動の概要

- ◇東京の一流シェフを訪問し、野菜のトレンドや料理の演出方法をヒアリングして、新規農作物等の生産販売、農村レストランのメニュー開発に取り組む。
- ◇新たに、シェフの需要に対し供給の少ないマイクロ野菜を栽培、また耕作放棄地を活用した西洋野菜の栽培を開始。世界初のもみじ葉で作った茶やエキス、食べられる乾燥もみじ葉などを開発し販売。
- ◇ホテルやレストランへ新規農作物をPRするため、国際ホテルレストランショーなどに出店。
- ◇シェフヒアリングで学んだ知識を生かし、地元有名イタリアンシェフの監修でメニューを作成して、地元住民を招いて農村レストランをプレオープン。

活動の成果

- ◇直接シェフにヒアリングして新しく生産を開始した野菜が評判となり、売り上げが上昇。
- ◇展示会でのPRによって、ホテルや大規模なレストランと取引を開始。特産のもみじ商品は、現地レストラン向け商品としてフランスへ輸出を開始。
- ◇展示会でのPR活動や農村レストランのプレオープンなどに取り組むことで、地域の団結が強まり、特に女性を中心に活発な議論がされるなど集落が活気付いた。

問合せ先

〒507-0046 岐阜県多治見市甘原町787-1(株式会社もみじかえで研究所)
TEL: 0572-44-7950 FAX:0572-44-7951

⑤かみのほゆず株式会社

～ 無農薬栽培にこだわり食の安全を考え、ゆずの里作りに全力を ～

◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化



ゆず祭り



夏休み親子教室



スポーツイベント(サイクルツーリング)

活動のきっかけ

昔から各家庭の庭木として栽培されていた「ゆず」に着目し、特産品として地域を活性化したいとの思いから、平成24年に生産組合と加工組合が合併して会社を設立し、特産品ゆずの安定した生産体制と加工販売に取り組む。

活動の概要

- ◇上之保、武儀地区の180人の生産者に良質柚子の栽培指導を実施。
- ◇数々のゆず加工品を開発、搾汁後の皮を活用するなど農産物がまるごと生きる商品づくり。
- ◇児童の社会見学を受け入れ、6次産業の取組の実態を詳しく説明。
- ◇夏休み親子教室を開催し、ゆずを使った手作りデザート作り体験を実施。
- ◇ゆず祭りの開催、スポーツイベントへの協賛で市内外の参加者との交流活動を実施。

活動の成果

- ◇岐阜県下一のゆず生産量を誇り、生産・販売で「ゆずの里上之保」の知名度がアップ。
- ◇6次産業化の取組等で地域雇用の創出に寄与。
- ◇社会見学で市内3校約230人の児童を受入。夏休み親子教室は30名が参加し、年々増加。
- ◇ゆず祭りでは2000人を超える参加者と交流。併せてゆず品評会を開催し、良品生産者の表彰により生産意欲が向上。
- ◇「ゆずゼリー」「ゆず胡椒」「ゆずドレッシング」などの商品化のほか、果汁を絞った後の皮を活用したパンのあんやデザートなどへの活用を目指した試作にもチャレンジ。

問合せ先

〒501-3601 岐阜県関市上之保15060番地
TEL:0575-47-2256 FAX:0575-47-2249

⑥曾代用水土地改良区

～ 未来へつなげよう！ 曾代用水 ～

◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



曾代用水での鮎すくいイベント



水路内のウォーキング



語り部の話を聞く小学生

活動のきっかけ

地元小学校がふるさと学習の一環として、曾代用水を見学・学習することとなったのを契機に、身近な用水路の歴史や守り続ける農家について発信し、若い世代に地域の宝である曾代用水への理解を促し、これを守り、継承したいという思いから本活動を開始。

活動の概要

- ◇約350年の歴史がある曾代用水を地域の宝として後世へ守り伝える活動を実施。
- ◇地元の小学生が、曾代用水の主要施設を巡り、語り部から用水の歴史や現在の管理について学ぶ「田んぼの学校」を実施。その後壁新聞や活動報告書を作り公共施設に展示。
- ◇毎年8月1日には、曾代用水を建設した3人の偉業をたたえ、例大祭を開催。
- ◇平成27年10月に世界かんがい施設遺産として登録されたのを機に、来訪者が増加し、視察や見学の受入を通じ県内外・国外に情報発信。
- ◇地元自治体とともに、用水路内で鮎を掴む体験、水路内ウォーキングなど、見るだけでなく水路の中に入って体感し、親しめるイベントを実施。

活動の成果

- ◇地元小学生の見学会や活動報告の展示会は、マスコミにも取り上げられ、広く情報発信。
- ◇各種イベントの開催や、田んぼの学校の学習の成果で、子供達も水路の大切さを理解。
- ◇国内外からの視察や、一般のツアーで見学者が増加し広範囲に知名度が上がる。

問合せ先

〒501-3217 岐阜県関市下有知6324-2
TEL:0575-22-3268 FAX:0575-22-3268

岐阜県関市

⑦武芸川町特産品開発企業組合「つるや」

～ ここしかないつるむらさきうどん当然日本一 ～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆女性の活躍



東京ビッグサイトでの展示会に参加



葉っぱ隊はつるむらさきで皆元気



つるむらさき体験が大縄跳びに

活動のきっかけ

武芸川町に特産品を作りたいと考え、岐阜薬科大学に栽培しやすい野菜・薬草を相談して「つるむらさき」を紹介され、農業婦人クラブを立ち上げて栽培と加工の取組を開始。当地域が小麦の産地であったことから、「つるむらさきうどん」を製造して企業組合として法人化。

活動の概要

- ◇武芸川小学校3年生を対象に、一年を通してつるむらさきの栽培・加工体験を行う「つるむらさき」授業を6年前から毎年実施。
- ◇長良川添いの市町村が取り組む手仕事や料理・体験を提供するイベント企画の「おんぱく」に参加して、東海3県にwebで紹介。また、東京の展示会に参加しつるむらさきを紹介。
- ◇つるむらさきの生産、加工場、農家レストランまで、女性の活躍の場を提供。

活動の成果

- ◇全く未知の野菜であったつるむらさきに20年以上取り組んで、地域の特産品として認知。
- ◇つるやが「おんぱく」で募集する、つるむらさきうどん作り体験等は数日で定員に到達。
- ◇10代から86歳までのスタッフは全て女性で、農作業の機械操作、農家レストランの運営、地域の伝統食メニュー作成など、地域の女性が元気に活躍。
- ◇親しみ深いうどんに加工したこと、展示会・イベントへの参加や地域での様々な活動の展開で市や県の推奨品に認定。
- ◇つるむらさきは、非常に遅く耕作放棄地でも生育が良いため耕作放棄地の解消に期待。

問合せ先

〒501-2601 岐阜県関市武芸川町谷口1223
TEL:0575-46-1391 FAX:0575-46-1391